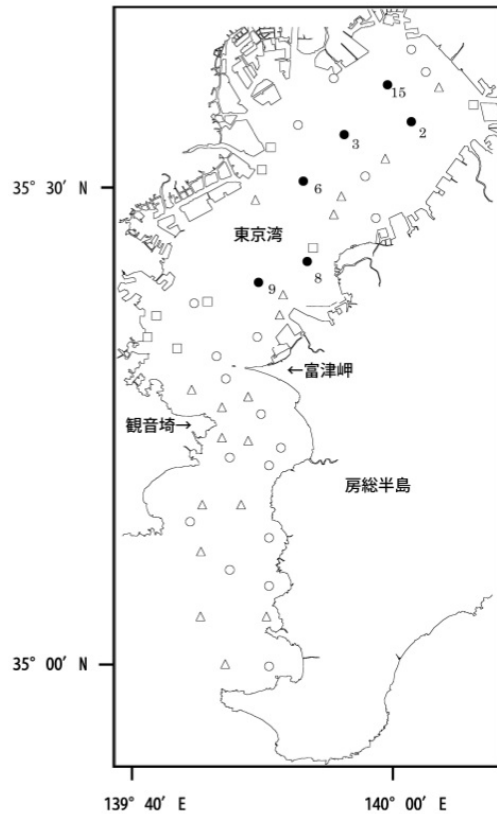


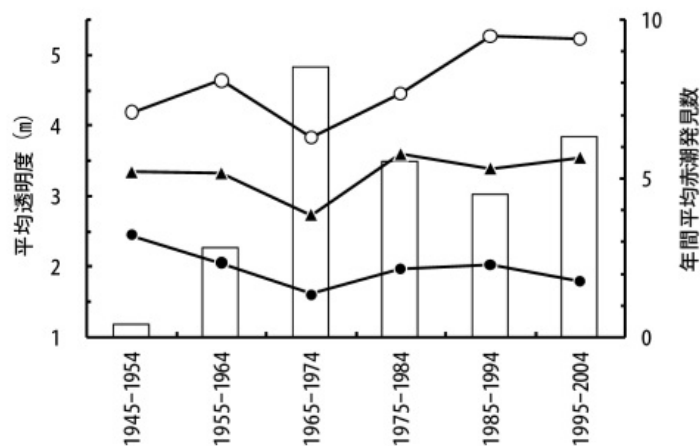
注：平成18年度の公共用水域水質調査結果（環境基準点）より作成

図5参-11 東京湾における透明度の月別分布状況



東京湾の水質調査点。千葉水総研セによる水質調査は1948年から始まった。その後6回大きな調査点の変更があり、現在26点で実施している。●は1948年～現在まで継続して実施している、○は現在行われている、□は1948年に行われたが現在は実施していない、△は一時期実施した調査点。

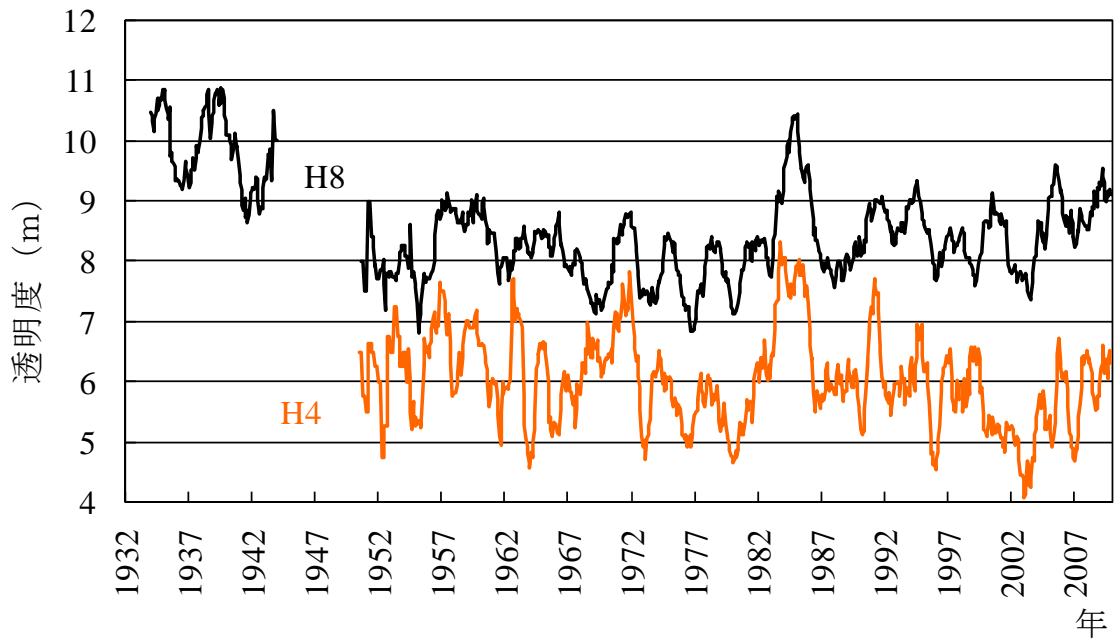
図5参-12 千葉県水産総合研究センターによる東京湾の水質調査点



東京湾における年代別平均透明度（1月，7月，年平均）と年平均赤潮発見数 (Stns. 2, 3, 6, 8, 9, 15) の変化。□は年間平均赤潮発見数，○は1月，●は7月，▲は年平均の平均透明度 (m) を示す。

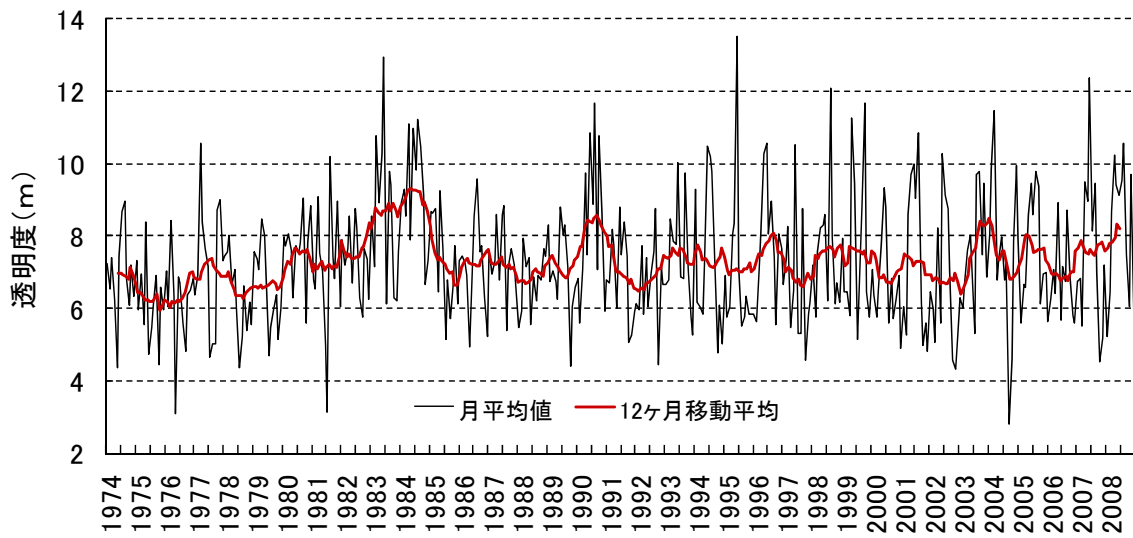
図5参-13 東京湾における透明度と赤潮件数の推移

出典：石井（2009）東京湾における透明度の長期変動について。黒潮の資源海洋研究 第10号，9-14。



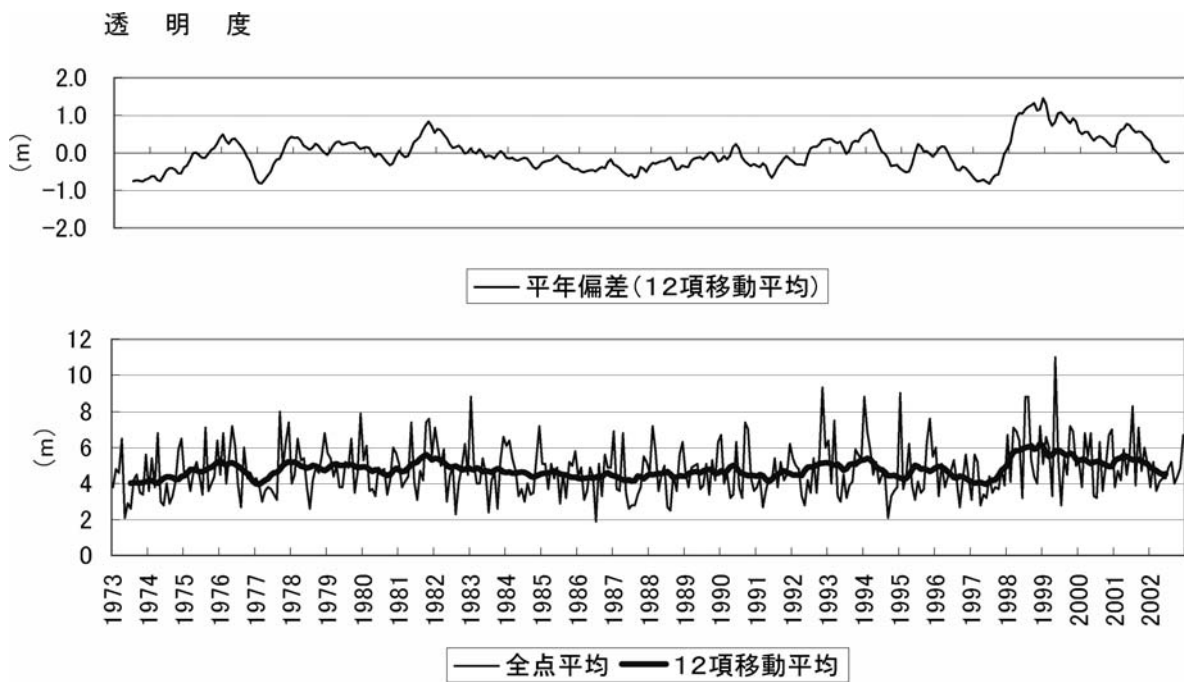
提供：兵庫県立農林水産技術総合センター

図 5 参-14 播磨灘北部沿岸 (H4) と播磨灘中央部 (H8) の透明度変化
(12ヶ月移動平均値)



提供：兵庫県立農林水産技術総合センター

図 5 参-15 播磨灘 15 地点の平均透明度の変遷



出典：水産総合研究センター瀬戸内海区水産研究所（2005）
 瀬戸内海ブロック浅海定線調査観測 30 年成果集 197 pp

図 5 参-16 瀬戸内海における透明度の経年変動と平年偏差